



みなみっ子

38号

学校教育目標

自立

協働

創造

令和8年7月10日(金)

南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

大里南小学校の校歌にある「ヘンサ森」ってどこ? 「ヘンサ」って何?

大里南小学校の校歌にある「ヘンサ森」について、赴任以来疑問に思い、いろいろな方々に訊いています。ここにあったという場所はわかりましたが、その由来についてははっきりしたことがわかりません。沖縄の他の地域にもあり、国頭村(辺野喜など)にある「ヘンサ森(ヘンサダケ・辺那座岳)」や各地の「ヘンサ」という地名・御嶽(うたき)の由来について、言語学的な背景と、地元で伝わる説を整理してみました。どなたか「ヘンサ」の由来を知っている方がいましたら教えてください。

1 「フェンサ(ピンザ)」=崖・傾斜地説

言語学的由来は、ウチナーグチや古語で「崖(がけ)」や「険しい傾斜地」「切岸」を意味する言葉です。沖縄の古い言葉で、崖や険しい場所を「ピンザ」「フェンサ」「ヒサ」などと呼びます(宮古・八重山や本島北部など、地域によって発音が変化します)。これが中央の言葉や漢字(辺那座、辺名座など)に当てはめられる過程で「ヘンサ」の音に落ち着いたと考えられています。ヘンサ森の周囲が切り立った急斜面や崖、あるいは険しい山容であることから、地形そのものを表した名前という説です。

2 植物の「ヘンサ(フェンサ)」説

沖縄の言葉で、特定の植物(特に棘のある植物や、魔除けに使われる植物など)を「フェンサ」と呼ぶ地域があります。山にその植物が自生していた、あるいはその植物で囲まれた聖域(御嶽)であったことから「ヘンサ森」と呼ばれるようになったという説です。

3 「はやぶさ(ハヤブサ)」とのつながり

鳥の「ハヤブサ」からヘンサ森のような切り立った崖は、ハヤブサが巣を作ったり、獲物を狙うために留まったりする絶好の場所です。そのため、「ハヤブサがいる崖」という意味から名付けられたという伝承があります。琉球王国の古い歌謡集『おもろさうし』などには、勇猛な者や神職、あるいは神そのものを「はやぶさ」と称える表現が登場します。ヘンサ森が聖なる山(御嶽)として信仰されていた場合、その山の神威を「ハヤブサ」のように鋭く強いものとして崇めた、あるいはそのように呼ばれる神が降臨する森(フェンサ)であった、という信仰的な由来も語られます。

まとめ

「ヘンサ森」の「ヘンサ」は、ウチナーグチの「フェンサ(崖・険しい場所)」が語源である可能性が高いです。そしてその険しい崖(フェンサ)には、鳥の「ハヤブサ」が巣を作っていたり、あるいは「ハヤブサ」と形容されるような荒々しくも神聖な力が宿るとされていたことから、これらの言葉が重なり合って現代に伝わっていると考えられます。

大里のヘンサ森



大里グリーンタウン自治会創立十周年記念誌より

開港前のヘンサ森(昭和49年度)

言語と地形のつながり

「フェンサ」= 崖・険しい傾斜地

古語で崖を指す「ピンザ」「フェンサ」が「ヘンサ」の音に変化した。



地形そのものを表す名前

周囲が切り立った急斜面である地形的特徴が、名前の由来となった有力な説。



聖域を守る植物の説

棘のある植物や魔除けの植物を「フェンサ」と呼ぶ地域があり、その自生地を指す。



「ハヤブサ」と神聖なる力

猛禽類「ハヤブサ」の生息地



切り立った崖はハヤブサの絶好の営巣地であり、その存在が地名に結びついた。

歌謡『おもろさうし』に見る神威



勇猛な者や神を「はやぶさ」と称える古来の信仰が、山の神聖さを象徴している。

語源の重なりによる伝承



地形(崖)とハヤブサの習性、神聖な力が複合的に合致して現代に伝わっている。

「ヘンサ森」の由来には、ウチナーグチ(沖縄口)の「崖」を意味する言葉、特定の植物、そして「ハヤブサ」という鳥や神名との深い関わりがあります。複数の説が重なり合い、その聖なる山の名前が形作られています。